令和７年度 近畿中国森林管理局
林野公共事業の事業評価技術検討会
議事概要

１　月　日：　令和８年２月 18 日（水）10:00～11:30
２　場　所：　近畿中国森林管理局　第１会議室
３　出席者：　技術検討会委員
委員長　井上昭夫
委　員　土井一生
委　員　深町加津枝（WEB 参加）
説明員　近畿中国森林管理局
総務企画部長、計画保全部長、森林整備部長
企画調整課長、計画課長、森林整備課長

４　議　題：　事前評価
森林環境保全整備事業（紀中森林計画区）
森林環境保全整備事業（高梁川下流森林計画区）
森林環境保全整備事業（高梁川上流森林計画区）

５　議事概要

（近中局）　森林環境保全整備事業（紀中森林計画区）の事前評価（案）について説明。

（委　員）　紀伊半島は多雨地域であり、過去には何度も山地災害が発生しており、森林の果たす役割は非常に大きい。和歌山県では、平成 23 年（2011 年）の台風第 12 号による大雨で深層崩壊等の山地災害が多発したが、紀中森林計画区内の被災状況はどうだったか。
　また、路網の開設にあたって、山地災害を踏まえて考慮していることは何か。

（近中局）　和歌山県田辺市内の上秋津区域をはじめ、いくつかの民有林の区域で山地災害が発生したことから、国有林において民有林直轄治山事業による復旧対策を現在も実施しています。
　また、路網の開設にあたっては、林業専用道作設指針に基づき、傾斜や地質等を考慮しながら調査設計を行い、災害に強い道づくりを行っています。

（委　員）　伐採地の広葉樹の保残について、どのような樹種があり、将来的には針広混交林のような森林を想定しているか。
　また、評価指標である山村の生活基盤の向上への寄与について、山村地域の状況や抱えている課題はあるか。

（近中局）　管理経営の指針において、伐採にあたっては高木性広葉樹を保残することとしています。なお、当該地域における市町村森林整備計画では、マツ類、ナラ類、カシ類、カエデ類、シデ類等のかなり多くの樹種が天然更新の対象樹種となっています。
　なお、人工林の単層林施業地において、これらの広葉樹が単木で混じっているイメージであり、針広混交林のような森林とは異なります。
　地域が抱える課題については、国有林が所在する市町村との連絡協議会や現地検討会等を通じて意見を吸い上げており、林業の低コスト化やシカ被害などの課題が挙げられます。

（委　員）　林業従事者の推移が 2020 年まで集計されているが、この地域の林業従事者の生業や暮らし方はどのようなものか。

（近中局）　国勢調査から引用したデータとなっていますが、傾向としては人口の減少に伴い林業従事者も減少しているところです。また、国有林としては、森林整備事業を安定的に事業発注することにより、林業従事者の確保に貢献できればと考えています。

（委　員）　国勢調査に限らず、市町村の統計情報等により地域の情報を把握し、現場の状況を含めて事業を実施することが重要である。こうした情報を蔑ろにしたチェックリストとならないよう、事業を計画していただきたい。

（委員長）　おおむね意見が出されたということで、紀中森林計画区の事業評価（案）について、技術検討会の意見を取りまとめる。技術検討会としての意見は「定量的な費用便益分析の結果及び定性的な評価結果を総合的に検討した結果、事業の実施は妥当である。」ということで良いか。（異議なし）

（近中局）　森林環境保全整備事業（高梁川下流森林計画区）の事前評価（案）について説明。

（委　員）　林業従事者の推移について、将来的なことを考えると、全国から若い年代を呼び込み、林業従事者として定住を図るような取組が必要と考えるが、市町村の振興計画や移住政策と連携した取組は行われているか。

（近中局）　当森林計画区の北部に所在する新見市は、岡山県内でも林業が盛んな地域であり、国有林の割合も多い地域となっています。このため新見市では、地域の林業や森林整備を進めていくため、林業従事者を増やすための取組が行われており、国有林においても試験地を設定して、視察いただく機会や技術的な交流等を行う等、林業従事者の確保に向けて地域と連携した取組を進めています。

（委　員）　広葉樹の保残について、水源涵養機能を重視するのであれば積極的に広葉樹を残すことも必要では。広葉樹を保残する言いながら、最後は木材利用を重視した施業になっている。当森林計画区では、どのような樹種を保残していくのか。
　また、評価指標である「自然環境景観への配慮」について、地域の意見を取り入れ配慮したこととは具体的にどのようなことか。

（近中局）　国有林では、ゾーニングにより機能類型区分に応じた森林整備を行っており、例えば、山地災害防止タイプの森林は、積極的に針広混交林を目指した森林施業を行っていますが、今回の説明にある水源涵養タイプの森林のうち、単層林で循環させていく森林については、伐採時に侵入している広葉樹を保残するものの単層林施業で循環していく森林となっています。
　なお、保残する樹種については、地域別に明確な規定は設けていませんが、当該地域の市町村森林整備計画においては、ナラ類、カシ類、カエデ類等が天然更新の対象樹種となっていますので、こうした樹種が保残の対象の参考になると考えています。
　森林計画の策定にあたっては、地域懇談会等により地域の意見を反映させることとなっていますが、林政一般に対する意見が主となっています。

（委　員）　チェックリストによる判断においては、山村地域の状況や地域課題などを把握したうえで、将来の山の在り方に反映させることが重要であり、こうした情報をしっかりと事業に反映されたい。

（近中局）　引き続き、地域の声を事業計画に反映できるよう努めて参りた

い。

（委員長）　おおむね意見が出されたということで、高梁川下流森林計画区の事業評価（案）について、技術検討会の意見を取りまとめる。技術検討会としての意見は「定量的な費用便益分析の結果及び定性的な評価結果を総合的に検討した結果、事業の実施は妥当である。」ということで良いか。（異議なし）

（近中局）　森林環境保全整備事業（高梁川上流森林計画区）の事前評価（案）について説明。

（委　員）　路網整備について、民有地が２箇所含まれているが、全体的なアクセスを考慮し必要と判断されたのか。

（近中局）　国有林に到達するまでの民有地において、併用林道の改良工事が必要となった箇所を計画しています。

（委　員）　獣害対策について、広範囲な対象地をどのような形で効率的に対策を講じているのか。また、獣害対策の対象となる動物はなにか。

（近中局）　獣害対策の対象は、主にシカとウサギです。獣害対策に係るコスト削減は非常に重要であり、例えば、防鹿柵の支柱を現地立木で代用するほか、ネットのコストダウンが図れる製品を使用するなどの取組を進めています。

（委　員）　国有林での獣害対策のノウハウを蓄積し、地域や民有林へフィードバックし、地域への貢献に努めていただきたい。

（委員長）　おおむね意見が出されたということで、高梁川上流森林計画区の事業評価（案）について、技術検討会の意見を取りまとめる。技術検討会としての意見は「定量的な費用便益分析の結果及び定性的な評価結果を総合的に検討した結果、事業の実施は妥当である。」ということで良いか。（異議なし）

以上で、議事を終了する。